

2010年2月7日
大日本スクリーン製造株式会社

2011年3月期 第3四半期決算説明会

・通期業績予想の営業利益が、前回予想比+30億円となった理由は？

半導体機器事業において、装置の販売価格の下落を抑制できたこと、および工場操業度の向上が、利益上振れの要因です。

・半導体機器事業の来期第1四半期以降の受注状況は？

来期第2四半期あたりまでは、400億～500億程度の受注環境が続くと思われませんが、2011年10月以降は、現時点で具体的な商談が始まっていないこともあり、不透明なところがあります。ただし、スマートフォンやタブレット型端末など最終製品の需要の見通しは、今のところ強気なものとなっており、当面、半導体製造装置の需要は堅調に推移するものと思われま

・従来機2.7倍の生産性を備えた半導体機器事業の新製品SU-3200の販促状況はどうか？

順調な滑り出しで、多くの引き合いをいただいております。

・有機EL関連の進捗は？

中小型ガラス基板向けコーターデベロッパーの受注は堅調です。ノズルプリンティング装置は今期第4四半期の受注を目指しております。